



今年度の終わりが近づき、もうすぐ新しい年度が始まります。新しい環境に変わるタイミングで「困ったりしないかな？楽しく通えるかな？」と不安になることもあると思います。でも大丈夫！ゆったり構えて、前向きに考えていきましょう！

今回のひよこのみずあびでは、ことばの支援について一緒に考えてみたいと思います。

ことばの支援について

<発語>

ことばが出始める1歳頃までの間に、身振りや表情を読みとれるようになっていたり、理解できることばが増えたりしていきます。また、耳や口などの発語に関わる身体機能や知能が発達することによって、発語が増えていきます。

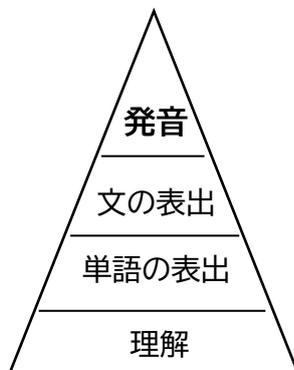
ことばの有無だけではなく、日頃からお子さんの様子を観察し、視覚的に理解する力や運動機能など、全般的な発達を確認してみることが大切です。

言語発達には個人差がありますが、2歳を過ぎて発語がない場合は、保健センターやこども支援センターげんき（あしすとを利用している方はひよこ）または、小児神経科のある病院へ相談しましょう。

<発音>

1歳近くになると、発音しやすい音を中心としたことばを話すようになります。その後も、ことばが発達し、唇や舌が器用になっていくのにもなって、発音できる音の種類が増えていきます。だいたい5～6歳までに日本語の全ての音が発音できるようになります。

固いものをよく噛んで食べる、歯磨きをしてお口の中をきれいに保つ、なども唇や舌の力を高めるためには有効です。



発音の発達	
1歳	} パ行・バ行・マ行・ナ行・タテト・ダデド
2歳	
3歳	} カ行・ガ行・ハ行・ヤ行・ワ行・シ・ジ・チ
4歳	
5歳	} キヤ行・ギャ行・シャ行・ジャ行・チャ行・ヒヤ行
6歳	

ことばの発達ピラミッド

発音を整えるためには、土台となることばの力が大切です。

焦らず、わかることばや話せることばを増やしていきましょう。

年中～年長で多語文レベルの発話があるものの発音の不明瞭さに改善がみられない場合は、こども支援センターげんき（あしすとを利用している方はひよこ）や、言語聴覚士のいる病院へ相談しましょう。

✿家庭でできる支援✿

幼い発音への対応は？



あっ！おしゃかな（さかな）！

「そうだね～！ さかな だね！」
「さかな 知ってるの？ すごいね～！」

「“しゃかな” じゃないでしょ！」
「“さ” って言ってごらん！」

発音の間違いを指摘したり言い直しをさせたりしてしまうと、話すことへの自信がなくなり、口数が減ってしまいます。口数が減ると、唇や舌が不器用なままになってしまい、発音が整いにくくなってしまいます。

発音が間違っているとしても、伝えられたことを認めることでコミュニケーション意欲が育ちます。意欲的にたくさんお話しすることで唇や舌が器用になり、発音が整いやすくなります。

また、大人は幼い発音にあわせず、常に正しい発音で話すことも大切です。

ことばがつまった時の対応は？



お子さんがことばを思い出そうと考えている時や「ぼ、ぼ、ぼく…」のようにことばをつまらせた時、大人が代わりに言うのではなく、焦らせないようにゆったりとした雰囲気のことばが出るのを待ちましょう。代わりに言うってしまうと、別の場面で“今度は自分で言いたい！早く言いたい！”という焦りの気持ちが強くなってしまいます。

お子さんは日々新しいことばを覚え、大人のように上手に使いこなそうと頑張っているところです。大人はゆっくり、のんびりとした口調で応じ、お子さんが落ち着いてことばと向き合えるような会話のペースを作ってあげられるとよいでしょう。

ことばの支援は、“大人はゆっくり話を聞いてくれる”という安心感をもってもらうことが大切です。

着替えや食事などの生活動作、身体を動かす運動や指先を使った遊びなど、日常生活のすべてがことばや身振り、コミュニケーションを育てます☆
お子さんからの発信や行動を観察しながら、できることを少しずつ増やしていきましょう♪

✿発達には個人差がありますが、心配なことは早めの相談・支援につなげていきましょう✿

機関誌『ひよこのみずあび』は、
足立区公式ホームページ (<http://www.city.adachi.tokyo.jp/>) 幼児発達支援室
ひよこ（障がい福祉センターあしすと通所事業）にアクセスすると掲載されています。

知ると分かる。すると変わる。



SDGS MODEL ADACHI